

被害を受けた写真・アルバムに関するご質問と対処法 一覧

震災において、お持ちの写真プリントや写真アルバムが水や泥をかぶってしまったなどに遭われた方々から、対処法について数多くのお問い合わせをいただいております。

本ページにて、主にフジカラーのお店などでご注文いただいている『銀写真プリント』に関する一般的な対処法をご紹介しますので、参考にしてください。

なお、写真プリントの損傷状態によっては、画像面が剥れて復元できなくなる場合があります。従って本ページで紹介する対処法については、写真プリントの一部分を利用して、まずお試しいただくことをお勧めいたします。この点ご了承ください。

また、この対処は暫定的なものであり、このまま放置、保管されますと画像が変退色する恐れがあります。落ち着いた時点で、フラットベッドスキャナーなどで画像を取り込み、改めて綺麗なプリントを作成することをお勧めいたします。

●プリントが水没して汚れてしまった場合の対処法

1. プリントが完全に乾いている場合は、先ず軟らかいハケで表面の泥などを軽く落としてください。ハケが無かったり、プリントが生乾きの（もしくは濡れている）場合は、直接2. から始めてください。
2. プリントをぬるま湯（約20℃～30℃）に一旦ぐらして、大きな汚れを落とします。表面に傷がつくので強く擦るのは禁物です。
3. 次に用意したきれいなぬるま湯（約20℃～30℃）にプリントを浸します。
4. プリントの表面を傷つけないようにして、指の腹部分を利用して、ぬるま湯中で優しく撫でるように擦り、泥や砂などをそっと落としていきます。裏面の汚れも忘れずに擦って落とします。
※その際、プリントの画像面の一部分や周囲が、簡単に赤くなったり、黄色くなったり、更に白くなったりする場合は、画像部分が完全に損傷しているので、それ以上ぬるま湯に浸けたり、擦る作業は中止にします（画像面の損傷がひどいものは、触ると微妙なヌメリ感があります）。
5. 洗浄が終わったら、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。新聞紙などの上に広げていっても、洗濯バサミやクリップのような物で端をつまんで、つるして乾かしても結構です。ドライヤーなどでの急激な乾燥は、プリントが反ってしまう恐れもありお勧めできません。

●プリントが水没して何枚もくっついてしまった、アルバムのページがくっついてしまって開かない場合の対処法

無理に剥そうとせずに、次の手順で対応してください。なお泥などの汚れ落としは上記の方法に順じます。

1. きれいなぬるま湯（約20℃～30℃）に軽く洗浄済みのプリントやアルバムを浸します。
2. 表面に出ているプリントに傷を付けないように注意し、重なったプリントを順番にゆっくり剥いていきます。アルバムの場合は中でプリントの表面同士がくっついている場合が考えられますので、十分にぬるま湯に浸し

てから、まずアルバム台紙などをゆっくり剥してから対処していきます。

3. くっついている場所の隙間にぬるま湯を徐々に浸透させていき、気長に剥していくことが肝心です。アルバムは駄目にする覚悟で、中のプリントを救済してください。※剥れない場合は無理に剥さず、もう暫くぬるま湯に浸けておき、自然に端から剥れるようになるのを、焦らずに待ってください。ひどくくっついたものは、30分以上時間が掛かる場合があります。
4. 順次プリントを剥せたら、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。新聞紙などの上に広げていても、洗濯バサミやクリップのような物で端をつまんで、つるして乾かしても結構です。ドライヤーなどでの急激な乾燥は、プリントが反ってしまう恐れもありお勧めできません。

●プリントがアルバムごと水没してしまった場合の対処法

濡れているアルバムをそのまま放置して乾かしてしまうと、中のプリントがくっついてしまったり、変色してしまったりします。生乾きになっているプリントは、台紙やビニールから無理に剥さず、次の手順で対応してください。なお泥などの汚れ落としは上記の方法に順じます。

1. きれいなぬるま湯(約20℃～30℃)に軽く洗浄済みのアルバム(もしくはその一部分)を浸します。
※プリントに損害が及ばなければ、作業がし易いように事前にページを破いて分割できれば便利ですが、アルバムをそのままの形で保存する場合は、大きな洗浄容器が必要です。
2. 重なってくっついたプリント同様、ビニールカバーやアルバム台紙などから、プリント表面に傷をつけないように、ゆっくり剥していきます。
※特にポケットアルバムのようなタイプは、水分の逃げ場が無いと、長期間の水分浸漬が予想されます。その際、プリントの画像面の周辺などが、赤くなったり、黄色くなったり、更に白くなったりしている場合は、画像部分が完全に損傷しているため、ビニールを剥してぬるま湯に浸ける程度で洗浄は終わりにします。決して必要以上に画像面を擦ることは禁物です。
3. 順次プリントを剥せたら、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。新聞紙などの上に広げていても、洗濯バサミやクリップのような物で端をつまんで、つるして乾かしても結構です。ドライヤーなどでの急激な乾燥は、プリントが反ってしまう恐れもありお勧めできません。

●カラーネガフィルムが水没して汚れてしまった場合の対処法

現像済みのネガフィルムが見つかった場合は、塩水や泥水を被っていても決して廃棄せずに、回収してください。通常は半透明の樹脂製ネガシートに入って保管されており、損傷が少なければ、後日、簡単に写真プリントの作成が可能です。泥などの洗浄の仕方はプリントとほとんど同じ方法です。

1. ネガフィルムが完全に乾いている場合は、軟らかいハケで表面の泥などを軽く落としてください。ハケが無かったり、フィルムが生乾きの(もしくは濡れている)場合は、直接2. から始めてください。
2. フィルム、もしくはフィルム入り樹脂製ネガシートごと、ぬるま湯(約20℃～30℃)に一旦くぐらして大きな汚れを落とします。表面に傷がつくので強く擦るのは禁物です。
3. 次に用意したきれいなぬるま湯(約20℃～30℃)にフィルムやフィルム入りネガシートを浸します。
4. フィルムの表面を傷つけないようにして、指の腹部分を利用して、ぬるま湯中で優しく撫でるように擦り、泥や砂などをそっと落としていきます。裏面の汚れも忘れずに擦って落とします。もしフィルムがネガシートとくっついている場合は、自然に剥がれるまでそのまま浸しておき、絶対に無理に引き出さないようにします。

※その際、フィルムの画像面的一部分や周囲が、透けている(透明になっている)場合は、画像部分が完全に損傷しているので、それ以上ぬるま湯に浸けたり、擦る作業は中止にします(画像面の損傷がひどいものは、触ると微妙なヌメリ感があります)。参考までに、ネガフィルムの画像面とは、両サイドの数字が逆像になって見える側です。

5. 洗浄が終わったら、ほこりのつかない場所で陰干し乾燥します。フィルムの両サイドにある穴を利用し、ゼムクリップを曲げてその穴に通して干したり、洗濯バサミやクリップのような物で端をつまんで、つるして乾かしても結構です。ドライヤーなどでの急激な乾燥は、フィルムが反ってしまう恐れもありお勧めできません。

●その他、上記プリント(写真印画紙／銀写真プリント)以外の写真プリントでの対処法

プリントの種類により対処方法が異なりますので、以下の方法を参考にしてください。なおインクジェットの写真プリントとは、WPもしくはRC(裏面樹脂コートタイプ)ペーパーのことです。

1. 昇華型プリント(店頭でのセルフプリント機でのプリント／裏面のロゴがFUJIFILM Quality Thermal Photo Paper)の場合の汚れ落としやくっつきに対しては、乾燥させてから対処します。水分を含んでいる綺麗な雑巾などで表裏を優しく拭けば結構です。昇華型プリント同士なら、くっついていたらぬるま湯に浸ける必要はなく、乾燥させれば容易に引き剥すことができます。
2. 染料のインクジェットプリント(家庭用プリンターなど)の場合には、乾いており1枚1枚になっていけば、ハケなどで表面を綺麗にしてください。汚れがひどくなければぬるま湯に浸ける必要はありませんし、浸けて洗浄するのであれば最短時間でぬるま湯から出してください。くっついている場合はぬるま湯に浸ければ1分程度で剥がれるので、剥がれたら直ぐにぬるま湯から取り出してください。長く浸けていたり画像面を強く擦り続けたりすると、染料インク(色素)が落ちてきて濃度が薄くなったり、染料がにじんだりします。ぬるま湯に浸けた場合は、陰干し乾燥させます。染料インクの種類により症状が違う場合があるので、詳しくは情報をお持ちのインクジェットプリンターメーカー様にお問合せください。

本件に関するお問合せ

富士フィルム写真救済プロジェクトフリーダイヤル

TEL: 0120-166-557(4/23より)

ホームページでも御案内しています

WWW/fujifilm.jp

富士フィルム株式会社 お客様コミュニケーションセンター

TEL:03-5786-1712